

	琉球大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	法文学部（第1年次：345名、第3年次：18名） 【夜間主】（第1年次：60名、第3年次：8名）
沿 革	昭和25（1950）年 琉球大学設置 昭和29（1954）年 文理学部設置 昭和42（1967）年 文理学部を改組し法文学部設置 昭和47（1972）年 国立大学移管
設置目的等	昭和29（1954）年に、広く教養的知識を修得させるとともに深く専門の学芸を教授、研究、普及し、知的、道徳的能力を展開させ、有為な社会の形成者を育成すると共に、世界文化の進展と人類の福祉に貢献することを目的として、文理学部が設置された。 昭和42（1967）年に、人文科学、社会科学を総合的・学際的・体系的に学び、広い視野と専門的な知識、国際感覚とバランス感覚を持った人間性豊かな人材を育成することを目的として、文理学部を改組し、法文学部が設置された。
強みや特色、 社会的な役割	【総論】 琉球大学における人文科学分野においては、「真理の探究」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追求」の基本理念の下で、真理の探究を図るとともに、島嶼（とうしょ）県に位置する総合大学として、沖縄県を中心とした地域の課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。 【教育】 ○ 人文科学の学問分野の教育研究を通じて、コミュニケーション能力や情報処理等の基礎能力、地域・国際社会理解力や課題発見・解決力等の専門能力を有し、広い視野と専門知識、国際感覚とバランス感覚を持った人間性豊かな人材を養成する。 ○ このため、7つの学習教育目標（自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性）を設定した学士教育プログラム「琉球大学グローバルシティズン・カリキ

ユラム」(URGCC)を実施するとともに、琉球学副専攻プログラムに取り組んでいる。

- 今後、URGCC 学習教育目標の到達状況を評価・分析することにより、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、異文化実地研修など学生の能動的学習を促す教育、グローバル化に対応する英語教育の充実・強化や組織的な教育体制等を整備する。また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学部における当該分野の強み・特色を明確にする。

【研究】

- 人文科学の基盤となる研究を推進するとともに、沖縄の歴史的・文化的・社会的な地域特性をいかした琉球諸語の研究、漢文資料の解明による中国・琉球関係史・交流史の研究、水中考古学研究などに取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、例えば、水中考古学研究では、水中考古学手法を用いて、長崎県松浦市鷹島沖で元寇沈船を発見するといった成果をあげており、松浦市長から研究室の市内誘致の要望を受け、平成 25 年度に水中文化遺産研究施設を市内鷹島埋蔵文化財センター内に設置するなど国内外から高い期待を得ている。
- 今後、沖縄及び沖縄に関連する分野の研究を目的とした「国際沖縄研究所」やアジア・太平洋地域をはじめとした海外大学とも連携し、人文科学の基盤となる研究、地域特性をいかした多文化共生に関する研究、総合的な研究を組織的に推進するとともに、沖縄を中心としたアジア・太平洋地域の課題解決、文化の発展に貢献することを目指す。

【その他】

- 夜間主コースに勤労学生を含めた社会人を積極的に受け入れており、地域のニーズを踏まえつつ、持続的な社会人の学び直しに取り組む。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズ、就職状況を踏まえつつ、学士課程教育及び教育研究組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。
- 卒業者を含めて、就職を希望する学生への支援の充実を図り、就職率の改善に努める。